

2023年3月12日 午前礼拝
「天の御国の生き方⑥」あわれみ深い者その2
説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 5:7

7.あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

【説教要約】

マタイ 5:3, 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

マタイ 5:4, 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

マタイ 5:5, 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

マタイ 5:6, 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

マタイ 5:7, あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

マタイ 5:8, 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

マタイ 5:9, 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

マタイ 5:10, 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

イエス様は、イエス様を信じた人に向けて、天国での生活、神様とともに生きる生き方とはどのようなものであるか、山上の説教を通して語られました。

先回到引き続き、山上の説教の中の「あわれみ深い者」について見ていきたいと思えます。

先回は、あわれみの大きな特徴である「赦し」について見ました。

神様は私たちが人の罪を「赦す人」であることを望んでおられますが、それは私たちの器が大きいから期待しているのではありません。私たちが、自分の優しさや器の大きさを罪を赦せるなら、神様のあわれみとは何の関係もありません。

神様が私たちに下さった赦しが、果てしなく大きくあわれみ深いので、私たちもそれにならうことができるのです。

神様の赦しとはどのようなものだったかという、「自分が損をする」ものでした。

罪を犯して、神様からの怒りの対象であり、滅びを待つしかなかった私たちです。赦しを請うなら、私たちがその償いをしなければなりません。

しかし神様は、とても罪を償うことのできない私たちのために、ご自身が損をされる道を選ばれました。それは御子イエス様を人として送り、私たちが受けるはずだった神の怒りとさばきをイエス様に肩代わりさせたのです。

神様が一方的に犠牲と悲しみを背負って、私たちの罪を赦してくださったのです。それで、イエス様が自分のすべての罪を負って死に、よみがえられたことを信じる人は誰でも神様に赦され、永遠のいのちをいただけるのです。

それと同じように、神様の大きなあわれみを味わったクリスチャンは、自分も他の人を赦すことが期待されているのです。

これが「あわれみ深い者」の一つの意味でした。

今日見ていくもう一つの意味は、「実際に施しをする」という意味です。

①イエス様の施し

「施し」も「赦し」に似た面があります。「自分が損をする」ということです。それはまず、神様から私たちに向けられたものでした。

マタイ 4:23, イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。

マタイ 4:24, イエスのうわさはシリア全体に広まった。それで人々は、さまざまな病気や痛みを苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかんの人、中風の人などをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らをいやされた。

マタイ 4:25, こうしてガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。

イエス様の活動は、ことばで福音を宣べ伝えることと、実際に癒すという行為が伴っていました。

人々はイエス様が語られるみことばの素晴らしさを聞くとともに、実際にイエス様が病気の人々に接し、癒されるのを見て、イエス様に付き従っていくようになったのです。イエス様のあわれみ深さを味わったので、信頼するようになったのです。

本来は、イエス様が献げものを受けられる立場です。

なぜなら、イエス様こそこの世界を造られた方であり、私たちを生かしておられる方だからです。

コロサイ 1:16, なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

コロサイ 1:17, 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。

実に、イエス様が地上に来てくださったのは、ご自分がほめたたえられるためでも、何かを貢がれるためでもありませんでした。

逆に、人々から蔑まれ、人々に与えるためでした。誰からも受けることなく、ただ惜しみなくお与えになる人生を送られました。それは、ご自分の持つておられるすべてを犠牲にしてくださいましたということなのです。

イエス様が私たちに施してくださった最大のものは、そのいのちです。

「マタイ 20:28, 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」

イエス様が十字架にかかって死んでくださらなければ、私たちは永遠のいのちを得ることはなかったのです。神様との関係を持つことはできなかったのです。ただイエス様が進んで払ってくださった犠牲により、信じる人はいのちを施されるのです。

では、イエス様は支払った分、何かを得たのでしょうか。これが商売ならイエス様は見返りを得る必要があります。信じた人は財産の8割を献金しなければならないとか、毎日20回のお祈りをしなければならないとか、奉仕を毎週8時間以上しなければならないとか。これは馬鹿馬鹿しいたとえでしたが、このような見返りは一切ないのです。もしイエス様から見返りを求められたら、それこそ私たちにはお支払いできるようなものはありません。前回見た借金のたとえのように、私たちが一生働いても到底返せないような、私たちが負える責任を大きく超えたものを神様は支払い、赦してくださったのです。

では私たちは本当に何もお支払いしなくていいのでしょうか。はい、何もいりませんし、そもそも何かを払うということが人間にはできません。何も返せない者に、イエス様はいのちを下さいました。これを何と表現すれば良いのでしょうか。これぞ、神の愛なのです。

皆様は、神の愛をすでに知り、受け取りましたか。

② 私たちの施し

では、イエス様の言われる「あわれみ深い者は幸いです」とはどういうことなのでしょう。私たちが何もお返しをしなくて良いなら、誰かに施すこともいらぬのではないのでしょうか。

イエス様が仰られたことは、「神の施しを味わって、自分の意志でそれにならう者」という意味です。前回の「赦し」もそうですが、まず神様が私たちに大きな犠牲を払ってくださり、それが分かった時、初めてならうことができるのです。

施しもまた、神様が自分にしてくださった施しとそこに込められたあわれみ深さを理解するときに、自分も同じように施すことができます。

その一つの例として、献金が挙げられます。もともと献金は新約聖書の中で、貧しい教会を支える施しとして描かれています。新約聖書で献金は、「貧しい人を助けるための支援金」と同じ単語なのです。

Ⅱコリント 8:1, さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。

Ⅱコリント 8:2, 苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。

Ⅱコリント 8:3, 私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上に献げ、

Ⅱコリント 8:4, 聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。

Ⅱコリント 8:5, そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。

ここでは、マケドニア地方の諸教会が、貧しいエルサレムの教会のために献金をした話が出ています。それは、彼らが金銭に余裕があったからではありません。むしろ「極度の貧しさ」にあったと書いてあります。

彼らが施しをしようと思った原因は、2節にあります「苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜び」にありました。それは、まずイエス様が自分のすべてを捨てて自分たちに与えてくださったことの喜びでした。

Ⅱコリント 8:9, あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

彼らは、主のあわれみ深さを実感していたのです。それで3節では「彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上に献げ」たとあります。それは誰かに強制されたり、見返りを期待して献げたのではなく、ただ神に感謝して、「自分もイエス様になりたい」と思ったからでした。

現代、なぜ礼拝で献金を献げるかといえば、それは神が自分にしてくださったことへの感謝の心からなのです。ですから感謝献金などとも言います。どんな施しも、まず神に献げられているのです。

そして、献金は私たちが富むためではなく、必要な人々に施されるために使われていきます。それで教会では用途が明らかにされるための会計報告があります。献金は願い事を叶えるためのお費銭でもなく、自分の優しさを示すための募金でもありません。ただ神への感謝から献げられる、施しなのです。

ですから、こう言われています。

Ⅱコリント 9:7, ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。

神様が求めておられるのは、感謝の心から自発的に献げる献げものです。

もし義務感だったり（いやいやながら）、誰かの目を気にして（強いられて）献げるものがあれば、それはもはや献げものではなくなってしまうのです。

これは献金だけでなく、すべての施しがそうです。

③あわれみ深い者はあわれみを受け続ける

マタイ 5:7, あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

先回の赦すこと、そして今回の施すことはどちらも「自分が損をする」行為だと確認しました。

それは、人が自分の力でできることではありません。まずイエス様が自分にして下さったことを味わわなければできません。

イエス様は、とても赦されない罪を犯した私たちのために罪の罰を受け、滅ぶ私たちのためにいのちを捨ててくださいました。私たちが何かをお返しできるからではなく、ただ愛のゆえにそうなされたのです。

同じように私たちも主の愛を味わっているなら、それにならいたいと思いませんか。

また、ただ「自分が損をする」だけでは終わりません。ここには約束があって、「あわれみを受ける」のです。それは人からではありません。神様からのあわれみです。

Ⅱコリント 9:6, 私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。

Ⅱコリント 9:7, ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。

Ⅱコリント 9:8, 神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。

Ⅱコリント 9:11, あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。

Ⅱコリント 9:12, なぜなら、この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく、神への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです。

神にならって施しをする人には、神様からあわれみを受けます。「すべてのことに満ち足」らせてくださるのです。なぜなら神への感謝から、「自分が損をする」施しをしている人はイエス様の姿を反映しているからです。見えない神様の姿がその人を通して現わされているのです。

主はその人が、ますます神様からのあわれみを受けて、ますます感謝でき、ますます励むために必要を満たしてくださいます。

それはいつも神様と繋がって、神様に感謝し、神様のわざを行える幸いな道なのです。その人は天国の生活を先取りしているのです。